

大槌町町勢要覧

2013

Message

未来につなげるメッセージ



大槌町
町勢要覧
2013

Message



発行日／平成25年3月
発行・編集／大槌町

〒028-1192 岩手県上閉伊郡大槌町上町1番3号
電話 0193-42-2111(代) FAX 0193-42-3855(代)
開庁時間／午前8時30分～午後5時15分
休日／土日、祝日

<http://www.town.otsuchi.iwate.jp/>



あいさつ



東日本大震災津波―。あの想像を絶する巨大津波により、多くの皆様が犠牲となられ、歴史や文化を重ねながら築いてきた、かけがえのないふるさとが一瞬にして壊滅するという甚大かつ未曾有の大惨事があった日から二年の歳月が経ちました。

今日まで大槌町に温かい御支援を頂いた全ての方々と、町政に御協力頂いている町民の方々に対し心より感謝申し上げます。

復興元年である平成24年度は、大槌町東日本大震災津波復興計画に基づく四つの基本施策「安全・安心の確保」、「暮らしの再建」、「地域経済の再興」、「教育環境の整備」を掲げプロジェクトを推進して参りました。

同時に、災害の記憶を風化させない事業として、がれきを礎とした「緑の防潮堤」への取り組み、また、官民連携の促進や地域経済の活性化を目的とした「復興まちづくり大槌株式会社」の設立のほか、教育分野では、被災した4つの小学校を統合し、小中一貫教育の導入を決定するとともに、郷土の文化、自然や防災について学ぶ「ふるさと科」を新設するなど、世界に

誇れるまちづくりに向け、大槌町独自の試みに着手しております。

本年2月には、大槌港を母港とし、東北地方の海洋調査を行う研究船「新青丸」の進水式が行われ、復興へとスピードを増す大槌町を象徴するかのようにより、力強く出航いたしました。

平成25年度は復興計画基本計画における「復旧期」最後の年度にあたり、今まで積み上げてきた取り組みが、遂に皆様の目に見える形として動き出す年であり

ます。「海に見えるつい散歩したくなるこだわりのある『美しいまち』」を描いてきたキャンバスへ更に深く色づけするべく、次の段階へと歩を進め、今年度を復興加速の一年と定め進んで参ります。

単に、震災前の町に戻すだけの復興ではなく、自ら知恵を絞り、また多方面からも知を集めた創造的な復興を成し遂げた町として、全国のモデルとなり、その姿を皆様にお見せすることが、町長としての私の使命でもあると受け止めております。ふるさと大槌が一日も早い再生を遂げ、より明るい未来へと向かうため、今後も皆様の御支援と御協力をお願い申し上げます。

大槌町長 碓川豊

CONTENTS

| | |
|-----------------------------|----|
| 町長あいさつ | 2 |
| 東日本大震災津波と大槌町 被災概要 | 4 |
| 東日本大震災津波と大槌町 まちの復旧 | 6 |
| 支援・ボランティア活動 | 7 |
| 新・大槌町、まちづくりへの第一歩 | 8 |
| 様々な視点から、新たな取り組みにも着手 | 10 |
| より豊かさを増す大槌の暮らし 医療・福祉・子育て | 12 |
| 連携を深め、大槌の特色を県内外に発信 | 14 |
| まちを支える産業のいま | 15 |
| 大槌の宝物 | 16 |
| おおつちの歴史 | 18 |
| 行政、議会、統計資料 | 20 |
| 姉妹都市・大槌タウンマップ・アクセス | 22 |

支援・ボランティア活動



おおつちの輪

震災後、たくさんの支援、ボランティア活動をしていただき、誠にありがとうございます。
皆様のご支援により、大槌町は新たな一歩を踏み出すことが出来ました。
大槌町は、これからも復興まちづくりを継続して参りますので、皆様方のお力添えをいただきましたら幸いです。

ボランティア活動状況 受入状況 (平成24年12月31日現在)

| 区分 | 平成24年12月実績 | 総数 |
|------|------------|---------|
| 団体数 | 42団体 | 6,894団体 |
| 受入人数 | 475人 | 65,713人 |

写真・資料提供/大槌町社会福祉協議会 復興支援ボランティアセンター、バイオニアグリーンサークル (PGC)

活動支援内容

- 浸水被害住宅の泥出し・家財撤去、がれき撤去、側溝の泥出し
- 炊き出し、イベント運営、ニーズ調査、引越支援、避難所支援
- 仮設団地での給茶、住環境点検、物資配布等
- 側溝泥だし
- 海岸清掃(吉里吉里海岸)

大槌町から ありがとうございます!



- 平成24年7月30日 第28回大槌町災害復興本部会議の開催
- 平成24年8月6日 大槌町役場仮庁舎 開庁式
- 平成24年8月9日 第30回大槌町災害復興本部会議の開催
- 平成24年8月23日 第30回大槌町災害復興本部会議の開催
- 平成24年9月4日 防災集団移転促進事業 国土交通大臣同意
- 平成24年9月5日 第31回大槌町災害復興本部会議の開催
- 平成24年9月5日 第1回安渡地域復興まちづくり懇談会
- 平成24年9月25日 第24回大槌町災害復興本部会議の開催
- 平成24年10月10日 第24年度第2回大槌町都市計画審議会
- 平成24年9月12日 東京大学 大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センター 移転計画(案) 説明会
- 平成24年9月18日 小枕・仲松地区 地区内住宅団地希望者説明会
- 平成24年9月19日 第2回赤浜地域復興まちづくり懇談会
- 平成24年9月21日 第32回大槌町災害復興本部会議
- 平成24年9月21日 第2回小枕・仲松地域復興まちづくり懇談会
- 平成24年9月24日 防災集団移転促進事業 国土交通大臣同意
- 平成24年9月25日 大槌町都市計画審議会復興土地地区画整理事業の都市計画決定
- 平成24年9月28日 大槌町都市計画道路の変更の都市計画決定
- 平成24年10月4日 第33回大槌町災害復興本部会議
- 平成24年10月28日 第3回赤浜地域復興まちづくり懇談会
- 平成24年11月3日 第2回安渡地域復興まちづくり懇談会
- 平成24年11月5日 第2回町方地域復興まちづくり懇談会
- 平成24年11月5日 第34回大槌町災害復興本部会議
- 平成24年11月5日 第2回浪板地域復興まちづくり懇談会
- 平成24年11月7日 災害危険区域指定に係る説明会
- 平成24年11月7日 第4回赤浜地域復興まちづくり懇談会
- 平成24年11月8日 災害危険区域指定に係る説明会
- 平成24年11月8日 第2回吉里吉里地域復興まちづくり懇談会
- 平成24年11月9日 大槌町独自支援事業 受付開始
- 平成24年11月9日 町方(新町・大町の一部、小枕・仲松)地域災害危険区域指定に係る説明会
- 平成24年11月9日 第3回小枕・仲松地域復興まちづくり懇談会
- 平成24年11月10日 全地域災害危険区域指定に係る説明会
- 平成24年11月12日 町方(栄町、須賀町)地域災害危険区域指定に係る説明会
- 平成24年11月13日 町外まちづくり懇談会
- 平成24年11月23日 第3回町方地域復興まちづくり懇談会
- 平成24年11月24日 第3回安渡地域復興まちづくり懇談会
- 平成24年11月25日 災害危険区域指定に係る説明会
- 平成24年12月1日 浪板地域復興まちづくり懇談会 個別相談会
- 平成24年12月2日 吉里吉里地域復興まちづくり懇談会 個別相談会
- 平成24年12月29日 災害危険区域に係る住民説明会 惣川地区 個別相談会

東日本大震災津波と大槌町

まちの復旧

震災直後から、警察、消防、自衛隊、各団体、ボランティア等、様々な方々の協力により、救出・行方不明者捜索やがれきの撤去を実施してきました。

生存者救出状況

3月11日の地震発生後、警察、消防等が協力し、道路も通っていないがれきの中を徒歩によるロープの捜索活動により、救助活動を実施。数百人を救出。

自衛隊合流後も、震災1週間まで生存者救出に注力し、23名の生存者を救出。

行方不明者捜索状況

3月16日広島県及び島根県警察機動隊約100名が浪板・吉里吉里地区での捜索活動を開始したのを皮切りに、全国警察の機動隊が派遣され、以降、千葉県警察、警視庁、大阪府警察、神奈川県警察等、北は北海道警察、南は九州の福岡県警察の警察官が大槌町に派遣され、行方不明者の捜索活動を継続。

捜索に従事した警察官は、平成23年11月22日現在で、17都道府県30部隊、総勢2381名に上る。



赤浜地区を捜索する福岡県警察機動隊員



栄町内の水路を捜索する北海道警察機動隊員

主な復旧状況 (平成24年7月15日現在)

| 大槌小学校付近 | 旧大槌町役場前 |
|------------|------------|
| <p>復旧前</p> | <p>撤去前</p> |
| <p>復旧後</p> | <p>撤去後</p> |
| 大安タクシー付近 | 国道45号付近 |
| <p>撤去前</p> | <p>復旧前</p> |
| <p>撤去後</p> | <p>復旧後</p> |

大槌町の動き

- 大槌町東日本大震災津波復興計画基本計画策定以降)
- 平成24年1月10日 第8回大槌町災害復興本部会議の開催
- 平成24年1月16日 第9回大槌町災害復興本部会議の開催
- 平成24年1月17日 第10回大槌町災害復興本部会議の開催
- 平成24年1月20日 大槌町議会全員協議会
- 平成24年1月24日 (随時) 大槌町議会政務調査会
- 平成24年1月27日 住宅再建に関する意向調査
- 平成24年1月23日 第10回大槌町災害復興本部会議の開催
- 平成24年1月27日 第2回大槌町議会全員協議会
- 平成24年1月30日 第11回大槌町災害復興本部会議の開催
- 平成24年2月6日 第12回大槌町災害復興本部会議の開催
- 平成24年2月13日 第4回大槌町議会全員協議会
- 平成24年2月19日 第1回国土・岩手県との意見交換会の出席
- 平成24年2月20日 第13回大槌町災害復興本部会議の開催
- 平成24年3月2日 第5回大槌町議会全員協議会
- 平成24年3月5日 第14回大槌町災害復興本部会議の開催
- 平成24年3月15日 第6回大槌町議会全員協議会
- 平成24年3月17日 大槌町土地利用計画案に関する住民説明会
- 平成24年3月22日 第15回大槌町災害復興本部会議の開催
- 平成24年3月26日 第16回大槌町災害復興本部会議の開催
- 平成24年4月1日 地域整備部の体制強化
- 平成24年4月23日 第17回大槌町災害復興本部会議の開催
- 平成24年4月25日 国との意見交換会の出席
- 平成24年5月14日 第18回大槌町災害復興本部会議の開催
- 平成24年5月14日 復興大臣との意見交換会、町内視察
- 平成24年5月17日 第8回大槌町議会全員協議会
- 平成24年5月21日 第19回大槌町災害復興本部会議の開催
- 平成24年5月24日 第5回大槌町議会臨時会
- 平成24年5月28日 第20回大槌町災害復興本部会議の開催
- 平成24年6月4日 第21回大槌町災害復興本部会議の開催
- 平成24年6月11日 第22回大槌町災害復興本部会議の開催
- 平成24年6月18日 第23回大槌町災害復興本部会議の開催
- 平成24年6月20日 第1回吉里吉里地域復興まちづくり懇談会
- 平成24年6月23日 第1回安渡地域復興まちづくり懇談会
- 平成24年6月25日 第24回大槌町災害復興本部会議の開催
- 平成24年6月30日 第1回町方地域復興まちづくり懇談会
- 平成24年7月1日 情報プラザオープン
- 平成24年7月2日 第25回大槌町災害復興本部会議の開催
- 平成24年7月8日 国との意見交換会
- 平成24年7月10日 第26回大槌町災害復興本部会議の開催
- 平成24年7月18日 第27回大槌町災害復興本部会議の開催
- 平成24年7月25日 第1回沢山地域復興まちづくり懇談会
- 平成24年7月28日 大槌町復興まちづくり懇談会



赤浜地区



町方地区



吉里吉里地区



浪板地区

新・大槌町、まちづくりへの第一歩

大槌町は、一日も早い復興を目指し、復興まちづくり懇談会や個別相談会を町内外で複数開催し、町民の皆さんと話し合いを重ねてきました。各地区では、津波に対してより安全なまちづくり、将来の少子高齢化に対応できるコンパクトなまちづくりに配慮し、復興まちづくりの将来像「海の見えるついで歩したくなるこだわりのある美しいまち」をコンセプトに復興まちづくり事業を実施しています。

今後大槌町では、皆さまと話し合いを続けながら、より具体的なまちづくりに取り組んでいきます。

予想図ができました



小枕地区



沢山地区

復興まちづくり完成



安渡地区



復興まちづくり懇談会



町長とお茶っこの会

Pickup 町民による町民のための地域まちづくり

大槌町では復興まちづくり懇談会や「町長とお茶っこの会」、各種ワークショップなどを定期的に開催して、町民による町民のための地域まちづくりを進めています。

また、大槌町では「大槌町復興まちづくり便り」を発行しており、町民の皆様へ復興に向けた都市整備などに関する最新の情報をお知らせしています。

復興まちづくりの体系



復興まちづくりの基本的考え方

- 津波防災の基本的考え方
「避難する、避難できる」を基本とし、津波による犠牲者を一人も出さない「津波災害に強い安全・安心なまちづくり」を目指します。仮に被災しても人命が失われず被害を最小化する「減災」の考え方とし、①防災教育の推進や防災体制の強化、②防潮堤など海岸保全施設の整備推進、避難路や避難施設等の整備、高台移転や土地の高上げ、③住居等の建築制限など土地利用規制等を組み合わせた「多重防災型まちづくり」を取組の基本とします。
- 土地利用の基本的考え方
高台移転を基本とします。この場合、高台等すべての宅地等の確保は困難であることから、今回の津波浸水範囲に盛土することなどによって安全度を高めた宅地等を確保します。また、早期の生活再建を促進するため、公営住宅の建設を優先的に進めます。
- 交通体系の基本的考え方
高規格道路として整備される三陸縦貫道が、国道45号が被災した場合の代替ルートとしての機能が確保されるようにします。また、防災拠点機能を有する町の中心部と町内各地域を結ぶ幹線道路について災害時の代替性をもつ交通ネットワークとして整備します。

Pickup

思いをつなぎ、命を守る杜「千年の杜づくり」を開催

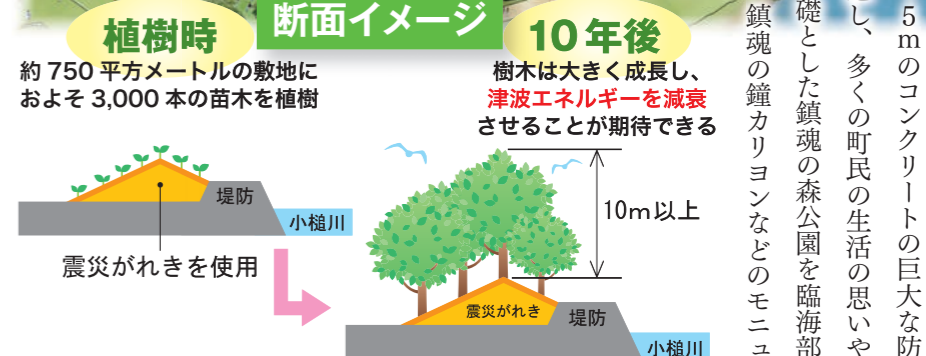


平成24年4月に、大槌町浄化センター敷地内で「命を守る森の防潮堤づくり」をテーマに大槌町と横浜ゴム株式会社の共催による「千年の杜づくり植樹祭」が行われました。

この植樹祭には碓川町長をはじめ、細川護熙元首相、細野豪志元環境大臣も参加。大槌町民、町内を訪れたボランティアを含め、約400名が会場に集まりました。植樹祭では、がれきを混ぜた盛り土の上にシラカシ、山モミジなど16種類の苗木3000本を植樹しました。植樹された木々は、10年後には町民の命を守る森の防潮堤になる予定です。

大槌町は、「がれきはただのがれきではなく、町民の思いが詰まっている。そのがれきを使い防潮堤を作ることで、鎮魂の思いを忘れず、震災を風化させない」と考えています。

鎮魂の森公園の造成



様々な視点から、 新たな取り組みにも着手

大槌町では復興をかねて日々新しい試みに取り組んでいます。町外からも、さまざまな視点でアドバイスを受け、より良い大槌町を創り上げていきたいと考えています。ここではその主な取り組みの一部をご紹介します。

「東京大学」 大槌を復興のモデルへ

平成24年3月、復興に向け東京大学と連携、協力に関する協定を結びました。東京大学が特定の自治体と協定を結んだのは初めてのことで、今後、当町のまちづくりに向けた支援を組織的に行うこととなります。

東京大学演田純一総長は、あいさつの中で、「大槌町を復興のモデルにしたい。」と述べました。



大学 協定

「明治学院大学」 学生によるボランティア活動

平成24年3月、明治学院大学と、「協働連携協定」を結び、同大学の西学長と碓川町長により協定書が交わされました。

協定内容は、学生によるボランティア活動を中心とした支援をすることで、相互の交流、発展を目的とするものです。

明治学院大学では、震災以後多くのボランティア活動をしていただき、今後も継続した活動をしてください。



「秋田県立大学」 木材を生かしたまちづくり

平成24年5月、秋田県立大学、木材高度加工研究所との連携協定を締結しました。

協定締結にあたり、「木材を生かした世界にほこれるようなまちづくり」を目指しています。

今後の活動としては、仮設住宅団地の敷地内に木橋を設置することが決定しており、その他にも木材の加工に関する機能や人材の育成なども含め、これから支援していただけることと見込んでいます。



「関西大学」 IT(情報技術)関連の人材育成

平成24年7月、関西大学とIT(情報技術)関連の起業支援事業を行う連携協定を締結しました。

この協定では、市場が拡大しているスマートフォンアプリケーション作成を中心として、人材育成と起業支援を行っていきます。この協定に対し関西大学の楠見晴重学長は「IT関連の人材育成、また雇用創出の場となりたい」と述べました。



Pickup

「明治学院大学」 「Do for Smile @ 東日本」

東日本大震災の直後から、明治学院大学はボランティアセンターを中心とした復興支援プロジェクト「Do for Smile @ 東日本」を立ち上げ、活動を展開してきました。

その中でも、吉里吉里では、さまざまな支援、プロジェクトへの協力、そして、一度は津波ですべて流された「吉里吉里語辞典」をデジタルデータで復元し、データベース化するなど、吉里吉里の文化そのものを復興し、将来に繋げてゆく作業にまで、ボランティア活動の幅は広がりました。

(明治学院大学ホームページより一部引用)

大槌の皆さんへ
私は平成23年9月に初めて大槌町吉里吉里を訪れました。その時、初対面なのにとても親切にしてくださり笑顔が絶えない方が多いこと、霧の向こうに薄っすら見える海がとても印象的だったこと今でも忘れられません。と同時に「あ、またここに来たいな」と思い、今日までこの活動のメンバーとして大槌に何度も訪れてきました。

わんぱく広場のサブリーダーとして活動する中で、初めは遊びに来てくれる子どもは10数名、時には「来たくないから帰る」と言われ気分は5人しか残ってないこともありましたが、時間の経過と共に参加する子どもの数は増え、今では50人を超える子どもたちが参加してくれるようになりました。今では、名前を覚えてくれていたり、何でも気軽に話してくれたりします。

ある子に「次は何がしたい?」と尋ねた時、「いつも通りでいいよみんなが来てくれるのが楽しみなんだから、またわんぱくやね、つらなれない遊びでも何だかんだで最後まで明学生と遊んで笑って帰って欲しいな」とか、中には「私は感謝の気持ちでいっぱいなんです。この子たちに会えたからこそ、大槌のいいところをたくさん教えてもらえました。」

私は本当に大槌町吉里吉里大好きです。微々たる力かもしれませんがこれからも復興のお手伝いのできたいなと思っています。これからもよろしくお願いいたします。

明治学院大学の学生様よりいただいた手紙の1枚

「関西大学」 「KAI-OTSUCHI」[SHIP]

社団法人 KAI-OTSUCHI の町内のアプリ制作未経験者が、iPad アプリ開発の勉強会「KAI-OTSUCHI」の森(電子書籍)をリリース。

社団法人 KAI-OTSUCHI は、関西大学と大槌町の協定による自律的復興支援プロジェクト、SHIP (Sledge Hammer Inspiration Project) です。大槌プロジェクトは、大槌町にIT人材を育成して雇用を創出することを目的としたプロジェクトです。

今後ITを中心に人材育成などを展開する予定です。



大槌の復興から世界へ 広がる海洋研究

「東北マリンサイエンス拠点」 づくりにも着手

平成24年1月から、「東北マリンサイエンス拠点」形成事業がスタートしました。漁業の復興へ大きな効果期待されるこの事業について、中心となる国際沿岸海洋研究センターに事業の概要を訊きました。

「東北マリンサイエンス拠点」 づくりとは?

「東北マリンサイエンス拠点」形成事業は、文科科学省の予算措置によって平成24年1月よりスタートしました。

これは、地震と津波が沿岸海洋生態系に及ぼした影響を把握し、その変動機構を解明するとともに、科学的なデータに基づいて漁業復興を支援していくというものです。東北大学(代表機関)、東京大学大気海洋研究所(副代表機関)、独立行政法人海洋研究開発機構(副代表機関)の三組織が中心となり、今後10年間に渡って緊密な連携のもとに調査・研究活動を実施します。

大気海洋研究所は、若手県大槌町の国際沿岸海洋研究センターを拠点とし、生態系のメカニズムを総合的に明らかにしていくことを目指しています。学術研究船をも駆使して学際的なアプローチを縦横に活かし、学内外の研究者の力を結集します。



イトヨと湧水

明治42(1909)年、今の御社地周辺に鮭の孵化場が創設されました。若手県では二番目に古い歴史となっています。昭和8(1933)年の津波によってこの孵化場は破壊され、その後湧水豊富な湧水に移設されました。鮭の孵化事業には、水温が一定である湧水が必要とされていることから、湧水を利用しています。

この湧水の湧水に、淡水型イトヨが生息しています。平成11(1999)年11月、総合研究大学院大学の共同研究会が大槌町で開かれ、湧水に生息するイトヨが注目されることとなりました。その後、大槌町は調査体制を整え、海水に多く含まれるストロンチウム同位体が耳石に含まれていないことから、極めて貴重な淡水型のイトヨであることが判明しました。この研究会には秋篠宮殿下が参加され、後年開催されたイトヨシンポジウムの折などにもご視察されています。

今回の東日本大震災津波により、新たな「種」の出現かどうかの調査が行われています。研究者によると、湧水に生息していた淡水型イトヨが津波によって、町方の湧水に引き込まれ棲みつき、川に遡ってくる「遡河型イトヨ」との交雑が起きているとのこと。本来、交雑しないはずのイトヨ同士が交雑するという、世界でも極めて希少な「存在」であるとしてその進化の過程が注目されています。

復興まちづくり大槌株式会社

大槌町では、住民の皆様をはじめ関係機関の皆様と協働し、一日も早い復興に向け鋭意取り組みを進めておりますが、その一方で縮小する経済社会に対応した取り組みも求められています。このような中、震災以前より経済基盤の脆弱な町が持続可能な地域経済・社会を実現するためには、震災からの復興は無論のこと、さらにその先を見据えた取り組みが求められています。

こうしたなか、町の100%出資により平成25年3月1日付けで「復興まちづくり大槌株式会社」を設立いたしました。

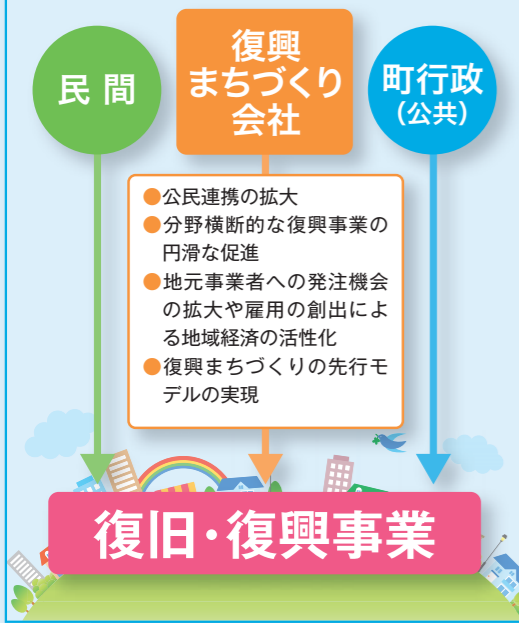
まちづくり会社を設立する意義は、市場の厳しい目を通じて近隣市町村よりも競争力のある事業を構築し、持続可能な地域を実現することにあります。その一方で、今、現実的に大槌町に起きている事象を的確に把握し、すぐに実施可能な事業を迅速に構築し、実行していく使命も持っています。現在厳しい生活を強いられている地元事業者の皆様積極的に投資を強いるよりも、まずは地元で雇用や漁業・農業などの取引を生み出す基盤となる産業を優先して投資・開発していくことが復興まちづくり大槌株式会社の役割であると考えます。

大槌町としては、この復興まちづくり大槌株式会社を中心に住民の皆様、関係機関の皆様と協働のうえ、持続可能な地域経済・社会の実現に向け不退転の覚悟で各種取り組みを進めてまいります。

- 商号・社名/復興まちづくり大槌株式会社 ● 所在地/〒0288-1115 若手県上開伊郡大槌町上町1番3号 ● 設立年月日/2013年3月1日
- 代表取締役 碓川豊(大槌町長) ● 取締役兼部長 澤田彰弘(総合政策部長)
- 従業員/スタッフ3名(予定) ● 株主/大槌町(持株比率95.3%)、宮古信用金庫(同4.7%) ※H25.3月末時点

設立意義

復興事業を早期に軌道に乗せるため、行政をサポートし、官民連携及び民民連携を促進・調整する役割を担うこと。



医療・福祉・子育て

まちが紹介する介護福祉サービス

- 介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）
 - 特別養護老人ホーム三陸園
 - 特別養護老人ホーム らふたあヒルズ
- 介護老人保健施設（老人保健施設）
 - 医療法人あかね会介護老人保健施設 ケアプラザおおつち
- 通所介護（デイサービス）・介護予防通所介護
 - 大槌町デイサービスセンターはまぎく
 - ゆーらっぴ指定通所介護事業所
- 訪問介護・介護予防訪問介護
 - 大槌町社協指定訪問介護事業所
- 訪問入浴介護・介護予防訪問入浴介護
 - 大槌町社協指定訪問入浴介護事業所
- 訪問看護・介護予防訪問看護
 - ふれあいおおつち訪問看護ステーション
- 通所リハビリテーション・介護予防通所リハビリテーション
 - 医療法人あかね会介護老人保健施設 ケアプラザおおつち
- 短期入所生活／療養介護・介護予防短期入所生活／療養介護
 - 医療法人あかね会介護老人保健施設 ケアプラザおおつち
 - ゆーらっぴ指定短期入所生活介護事業所
 - らふたあヒルズ指定短期入所生活介護事業所
- 福祉用具貸与・介護予防福祉用具貸与
 - 南部屋産業株式会社NBS福祉サービス普及会
- 福祉用具購入費・介護予防福祉用具購入費
 - 南部屋産業株式会社NBS福祉サービス普及会
- 認知症対応型共同生活介護・介護予防認知症対応型共同生活介護
 - グループホーム 城山の杜
- 認知症対応型通所介護・介護予防認知症対応型通所介護
 - デイサービス 城山の杜
- 小規模多機能型居宅介護
 - 旧多機能ケアセンターほっと大町（名称は現在未定）
- 障がい施設
 - 四季の郷、相談支援事業所 四季
 - わらび学園 ●ワークフォローおおつち

まちが紹介する子育てサービス

- 大槌町立安渡保育所
- 大槌保育園
- 吉里吉里保育園
- 堤乳幼児保育園
- 大ケ口保育園
- みどり幼稚園
- おさなご幼稚園
- 大槌町託児所



保健・医療・福祉

町民の生涯を通じた健康づくりに向けて一貫した体制づくりを行い、また、意識啓発活動を推進します。医師の確保など地域医療体制の充実のための要請運動



健康づくり・国民健康保険

一人当たりの医療費が増加する中で、被保険者数の減

や関係機関との連携を強化します。すべての町民が住み慣れた地域で暮らし続けられるよう関係機関との連携を強化し地域での組織づくりやボランティア組織の育成を図り、支援体制を構築します。また、在宅での介護と併せて身近な地域における介護施設整備への支援を図ります。障がい者の地域での自立した生活を支援するため相談センターを設置し、介護サービスを提供します。障害に応じた障がい児に対する支援体制を整備し、必要に応じたサービスの提供を図ります。児童の健全育成に向けて、相談体制の整備に努め、将来を見据えた保育事業を図るため、保育所再編を進めます。生活困窮者などに職業訓練・就職などを斡旋して自立支援を行うとともに民生児童委員など関係団体との連携による支援体制づくりを推進します。町内会などの地域の団体と連携を強め、意識啓発やリイダー育成など、防犯交通安全活動を推進します。

岩手県立大槌病院仮設診療所

津波で大きな被害を受けた岩手県立大槌病院が、平成23年6月に仮設の診療所が完成して診療を始めました。新たに完成した診療所は、日本災害医療口ジスティック協会（東京都）が提供した広さ約460平方メートルのプレハブ。診療室や検査・処置室、事務室のほか、エックス線撮影室も備えています。



より豊かさを増す大槌のくらし

大槌町では、すべての子どもたちの豊かな「育ち」と確かな「学び」を実現するため、小中一貫教育を導入します。これは、義務教育にあたる九年間の系統性を大切にし、小学校と中学校のスムーズな接続をめざすとともに、学校・保護者・地域が一体となって連携・協働しながら進めていくものです。平成25～26年度を試行期間とし、平成27年度には本格的に導入していく予定です。

その小中一貫教育の取り組みの一つとして、特設の科目でふるさとを学ぶ「ふるさと科」を全学年に設置します。



「ふるさと科」は文部科学省の特例校指定を受けました

「生きる力」

命やものの大切さと人の絆の大切さを受け止め、人としてのあり方や自らの生き方を考え見つける。

「ふるさと創生」

地域復興をめざすふるさとの中で自らの役割や責任を考え、ふるさとを支える担い手になる。

ふるさと科でねらうもの

「生き方」を基盤とした教育内容を構成し、地域や自分の生き方を見つめ、大槌町の復興発展を担う人材を育成をします。

ふるさと科にむけた取り組みがはじまりました

Pickup

吉里吉里中学校 郷土芸能発表会

各小中学校ではふるさと科へつながる取り組みが始まりました。吉里吉里中学校では郷土芸能発表会が行われ、テーマは、郷土芸能「神楽・鹿子締り・虎舞」とし、保存会や講師の方々の指導のもと、地域の文化・郷土芸能を学びました。

このように、ふるさと科では地域の皆様が先生役となって、子ども達の地域への愛着を育てていきます。



地域への愛着

生き方、進路指導

防災教育

ふるさと科の三つの柱

●地域への愛着

- ・地域の歴史や特産をまなび、地域社会への関心を高め、主体的にかかわる態度を育成する。
- ・郷土の文化・郷土芸能を学び、郷土への愛着心を高める。
- ・町の復興発展をとらえ、ふるさとの将来像を見つめる。

●生き方・進路指導

- ・郷土の産業や経済を学び、生き方や進路を考える。
- ・復興をめざす地域社会の中で自分の役割を理解し、将来を切り開く能力を育成する。
- ・地域や多様な企業・団体と連携した職場体験により、生き方を実現しようとする態度を育成する。

●防災教育

- ・郷土の自然・地形や災害、防災体制の意義について理解を深め、災害時や防災に対する主体的な判断力と実践力を育成する。

●農業復興に向けて
大震災の津波により、農地を被災された方、機械を流失された方が集まり、「大槌町地域農業復興組合」を結成しました。当初は、農地の瓦礫除去などの共同作業から始まり、イチゴの高設栽培を開始するまでに至りました。町内での、高設栽培は初の試みであり、今後規模を拡大し、産地形成を目指します。

●沿岸農業拠点センターの整備
大槌の営業拠点として、産直施設と研修施設などが一体となった施設を整備します。地元で採れた野菜などを販売し、町内はもちろん、町外の方々にも大槌をPRする場としての位置付けを目指します。

●特産品
町特産の野菜として第一にピーマンが挙げられます。主に系統出荷での流通で、多方面から高い評価を得ています。大槌で生産された酒米を原料とした「ゆめほなみ」が、好評で、お酒好きの間で人気となっています。地産地消の取組みとして、地元で生産されたソバを町の店で食べられるよう、農業者、飲食店、関係機関と連携して取り組んでいきます。

大槌町漁業復興状況 平成25年3月1日

| 種別 | 被害など |
|--------|---|
| 漁業協同組合 | 新おおつち漁業協同組合 設立：H24年3月1日 組合員数281名（正組合員数264名、準組合員数17名） |
| 魚市場 | H24.9.5：大槌魚市場水揚開始 |
| 定置網 | H23：沖野島定置網整備済 1ヶ統 H24：沖野島定置替網 H25：野島・長越定置網整備予定、3ヶ統復旧予定 |
| 定置船 | H23：定置船4隻 応急修理 H24：新造船（19t）2隻 建造着手 H25：新造船2隻就航予定 |
| 漁船 | H23：被害672隻 復旧計画数280隻 H24：復旧数264隻（H25年2月28日現在） |
| ワカメ養殖 | H23：被災棚数400台 復旧数197台 H24：復旧数227台 復旧予定数計250台 ※水揚数量 H22：365.9t H24：197.2t |
| ホタテ養殖 | H23：被災棚数374台 復旧数72台 H24：復旧数112台、復旧予定数122台 ※水揚数量 H22：244.4t H24：25t |
| カキ養殖 | H23：被災棚数32台 復旧数0台 H24：復旧数47台 復旧予定数56台 ※水揚数量 H24：29.7t |
| ホヤ養殖 | H23：被災数72台 復旧数0台 H24：復旧数29台 復旧予定数34台 ※水揚数量 H22：80t H24：0t |
| 経営体数 | わかめ養殖：55経営体→21経営体 ほたて養殖：50経営体→12体経営体 かき養殖：6経営体→13経営体 |
| さけ関連施設 | H23：源水心化場（部分復旧）放流量約10,000千尾 ※H22：30,800千尾 H24～H25 源水川心化場復旧（増設）予定 |
| アワビ漁 | H22：水揚量 10,837.2kg H23：水揚量 2,577kg |
| うに漁 | H22：6,248.8kg H24：水揚量 2,094kg（H24年8月31日現在） |
| こぶ漁 | H24：79.8t（H24年8月31日現在） |

「水産業」

左の表は、大槌の基幹産業である水産業の復興状況です。



【株式会社伊藤商店】

株式会社 伊藤商店は、昭和10年より続く会社で、当町でもトップクラスの魚介類取扱高を誇ります。津波により大被害を受けましたが、町内水産加工業者では最も早い4か月後の7月より営業を再開しました。同社は、震災以前より水産加工業、冷凍冷蔵保管業、小売業と幅広く営業を行っており、今後の水産業振興、特にも流通分野、外来船誘致等、水産業全体への振興が期待されています。「大槌町の水産業を盛り上げたい。」と伊藤常務は語っておられました。



【平庄株式会社】 水産加工業の新規参入

大槌町と釜石市大平町の水産加工業者平庄(株)が企業立地協定を結びました。震災後初となる水産加工業の新規参入により、町の水産業復興にとって大きなはずみがつきそうです。平庄(株)は、安渡3丁目の魚市場付近に工場を整備する予定です。地元で水揚げされた魚介類にこだわり、高度な衛生管理の下、高鮮度商品の生産を目指します。また、廻船問屋も兼業していることから、積極的な漁船誘致を展開することで大槌町の水産加工業生産額向上が期待できます。操業は来年の10月予定で、約20人の新規雇用を創出する見込みです。

まちを支える産業のいま

東日本大震災は、大槌の産業にも大きな損害をもたらしました。大槌町の復興には産業の回復が欠かせないため、課題も多いなか、日々復興に向けての取組みが行われています。

Pickup シーサイドタウンマスト

以前から大槌町で便利さを提供し、にぎわいを見せた複合型のショッピングモール「シーサイドタウンマスト」も、津波により非常に大きな被害を受けましたが、リニューアルを伴い、平成23年12月に営業を再開しています。また、「大槌町復興まちづくり情報プラザ」をシーサイドタウンマスト2階にオープンしました。地域ごとのまちづくり計画や住宅再建制度、復興スケジュールの情報をパネルや模型、3D映像で紹介しています。



Pickup 福幸きらり商店街

平成23年12月に大槌北小学校の校庭にオープンした仮設商店街です。町内の小学生が名づけた、『福幸きらり商店街』には、スーパー、飲食店、弁当店、美容室など生活に密着したさまざまな店舗が入っており、連日多くの町民に愛用されています。



「林業」

●地域材の活用
公共建築物等における地域産木材の利用を促進し、林業の再生を通じた森林の整備・保全に加え、再生産可能な資源である木材を使用することによる低炭素社会の実現。さらには森林の有する多面的機能の持続的な発揮による「安全安心な暮らし」「地域経済の活性化と雇用の創出」「地球温暖化防止と循環型社会の形成」に貢献することを目指します。

●特産品（しいたけ）
現在、大槌町では東京電力福島第一原子力発電所事故の影響でしいたけの出荷が制限されていて、その解除に向け、生産者と町で協力し合い作業を進め、生産環境の整備を進めています。

●概要
大槌町の森林面積は、町有林788ヘクタール、民有林8010ヘクタール、国有林9018ヘクタール、合計17816ヘクタールとなっており、町の面積の88パーセントを占めている、貴重な資源です。また、樹種は、主に杉、アカマツ、カラマツです。



【株式会社ナカショク】

株式会社ナカショクは平成11年より創業を開始し、大槌町の海の幸を生かした冷凍食品を製造販売しています。津波により全ての工場が被災しましたが、現在、工場の着工まで至りました。現在着工している新工場は、ハセップ対応や新しい冷凍技術のプロトトンネルフリーザー・凍結庫を導入しており、今後も皆様の食卓へ、安全、安心の冷凍食品をお届けしていきます。

【株式会社千田精密工業】

株式会社千田精密工業（本社：奥州市）大槌工場は平成7年より操業を開始。大槌工場では、半導体大槌を拠点に活躍する企業&研究所製造装置や液晶基盤製造装置部品の中でも大型のもの加工を、マシニングをはじめ、旋盤、溶接の工程により行っています。同社は平成17年、英国TWI社が開発した「摩擦攪かく拌はん接合」技術の使用ライセンスを日本の中小企業としてはじめて取得、また、平成18年には、経済産業省の「元気なモノ作り中小企業三百社」に選定されました。



【株式会社エノモト】

昭和37年の創業以来培ってきた高い精密金型技術を活かして、エレクトロニクス関連のものづくりを多岐に支えている株式会社エノモト（本社：山梨）。同社が大槌に工場を新設したのは、平成9年。現在、大槌工場の主な事業は、半導体用のコネクタ用部品などの金属プレス加工品で、これに使用する金型も製作。携帯電話メーカーをはじめ多様な分野の顧客企業から提供される製品設計図を基に製品化を行い、品質・納期ともに安定的な納品を実現しています。

大槌町地場産品復興プロジェクト 「立ち上がれ!ど真ん中・おおつち」

立ち上がれ!ど真ん中・おおつちは、有限会社浦田商店、芳賀鮮魚店、小豆嶋漁業株式会社、株式会社ナカシヨクの代表4人が集まり、震災でダメージを受けた水産加工業の復興を目指しスタートしたプロジェクトです。



TRIS食品有限会社

東日本大震災津波によって、建物は屋上まで浸水しましたが、それでも建物の外郭が残りました。

これを見てこの建物を再利用することに決め、今年から、屋号を「潮風堂」と銘々し北部三陸(岩手県沖)を産地とする原料魚を主に使用した水産加工食品販売をしております。



Pickup



お土産、加工品

江戸時代。江戸の人々の大きな好評を得た「南部鼻曲がり鮭」を世に送り出したのは、幕府開府当時の大槌城主「大槌孫八郎」でした。彼は爆発的に人口が増えた江戸の市場に着目し、それまで地元でのみ消費していた名産の鮭を塩引き(新巻)にして江戸へ出荷したのです。上質の素材を加工して商品価値を高め、経済流通させたことは、まさに孫八郎の慧眼によるものでした。



- その他主な加工品
- 銀鮭
- 塩蔵ワカメ
- いかめし
- いくら

Pickup 大槌のワカメは絶品

震災で打撃を受けたワカメの収穫も平成25年3月から2年ぶりに再開しています。「大槌のワカメは絶品」という声も、また聞こえるようになりました。



- その他主な海産物
- 鮭
- ドンコ
- アナゴ
- サバ
- いくら
- 海藻類
- しゅうりょうムール貝
- ほたて
- かに
- ホヤ
- カキ
- など



川の恵

- アユ
- ヤマメ
- イワナ



東日本大震災津波によって、被害を受けた世界三大漁場、三陸、そして豊かな自然。現在、津波で被害を受けた大槌の恵は、私たち人間の力以上に自然が日々その美しさを取り戻してきています。

海の恵

大槌の宝物

食材の宝庫、大槌。そしてこれからも伝えていく大槌の文化を紹介いたします。

大槌町から歌声を発信 白澤みさきさん

大槌町出身の白澤みさきさんが平成24年、歌手デビューし、『第45回日本有線大賞』と『第54回日本レコード大賞』で新人賞を受賞しました。



聞く人の心に響くみさきさんの歌声が、大槌町をますます元気にしてくれそうです。

Pickup

大槌町では生涯学習による まちづくりを推進しています

大槌町では、町広報誌、チラシ、ホームページ等を活用して生涯学習として、イベント等の周知を図るとともに、講演会の内容を対象者に配布することで生涯学習の意欲喚起に努めております。また、災害復興計画を見据えながら、生涯学習推進計画の見直し等を行い、まちづくりにもつなげていきます。

- 主なイベント
- 町民文化祭
- 郷土芸能祭
- 大槌町チャレンジデー
- 高齢者生きがいセミナー
- 子育てサポーター養成講座
- マリンランド自然体験塾
- 対人スキルアップ専門研修講座
- 中高年のためのいきいきスポーツ大会
- おおつちの自然と歴史体感ウォーキング



- ①虎舞(安渡虎舞・城山虎舞・向川原虎舞・陸中弁天虎舞・吉里吉里虎舞)
- ②鹿踊り(白澤鹿子踊・金澤鹿子踊・上京鹿子踊・吉里吉里鹿子踊・徳並鹿子踊)
- ③神楽・大神楽(安渡大神楽・金澤神楽・吉里吉里大神楽・城内大神楽・中須賀大神楽・浪板神楽・浪板大神楽・花輪神楽・松の下大神楽) その他(雁舞道七福神・吉里吉里鶏子舞・浪板牛方節)

大槌稲荷神社神輿渡祭典、小釜神社神輿渡祭典

平成24年9月、大槌稲荷神社神輿渡祭典、小釜神社神輿渡祭典が行われ、参加者と見物客でにぎわいました。町への愛情、復興への願いを乗せた神輿は、威勢のいい掛け声とともに、無事に町内を歩き終えました。



おおつち鮭帰願祭

平成24年12月、震災後2度目となる鮭帰願祭が開催されました。

また、今年は、震災後初めてとなる鮭のつかみどりを開催。今年は会場内にプールを準備しました。プールの中を泳ぎ回る鮭を掴もうとする子どもたちの声があつた会場を活気づけました。

芸能・イベント

海の男たちの心を捉え、受け継がれる虎舞、そして虎舞の粋を超えた地域活動。震災を乗り越え、大槌をつなぐ。

秋の大槌を彩る「大槌まつり」の華のひとつ、虎舞。この勇壮な舞いの起源には諸説があるが、前川善兵衛による交易を契機として大槌にもたらされたといわれています。その後、虎舞は、航海の安全を祈願するものとして、海の男たちによって代々受け継がれてきました。毎年の祭りの日には神輿や大神楽などとともに人々をまちに呼び込み、見る者の心をもひとつにします。



Pickup

地酒

銘酒「浜娘」

明治29年創業の町内唯一の酒蔵・赤武酒造株式会社も、震災で酒蔵を失ってしまいました。

しかし「大槌町は負けない! 赤武酒造は負けない!」を胸に、現在は岩手県盛岡市に酒蔵をかまえ、大槌の豊かな海の幸をあわせて一献もてなすには絶好の地酒、銘酒「浜娘」を造り続けています。



品種は、「紅ほっぺ」と「さがほのか」。消費者からも「甘くておいしい」と評判も上々です。

- その他主な農産物
- しいたけ
- まつたけ
- 酒米
- そば
- 山菜
- など



Pickup

大地の恵

復興イチゴで おおつちに元気を

被害を受けた農業者で「大槌町地域農業復興組合」を結成。農業復興に向けた活動を実施し、平成24年度より農地にイチゴ栽培用のハウスや資材などを設置しました。

大槌でイチゴの栽培は非常に珍しく、県の機関から技術的なアドバイスや、他の市町村で栽培している農家への視察などで栽培方法を学びました。

おおつちの歴史

縄文から江戸時代

明治から現代

縄文早期
縄文中期
縄文晩期
弥生時代後期
奈良・平安時代

縄文早期から早期末葉の尖底深鉢土器出土
夏本、赤浜Ⅱ遺跡から多数の竪穴住居跡検出
櫛沢遺跡から精製土器が多数出土
弥生時代後期の住居跡が夏本遺跡から検出
夏本遺跡から八世紀前半の住居跡を発見
沢山遺跡から平安時代の住居跡を検出
明空上人が光願寺を草創したとされる
大槌氏が大槌城を築城したとされる
大槌孫三郎が遠野阿曾沼氏を攻める
永享の乱起こる

明治元(一八六八)
明治2(一八六九)
明治4(一八七二)
明治6(一八七三)
明治22(一八八九)
明治29(一八九六)
明治30(一八九七)
明治36(一九〇三)
明治42(一九〇九)
大正12(一九二二)
昭和8(一九三三)
昭和14(一九三九)
昭和20(一九四五)
昭和23(一九四八)
昭和25(一九五〇)
昭和27(一九五二)
昭和30(一九五五)
昭和33(一九五八)
昭和35(一九六〇)
昭和42(一九六七)
昭和43(一九六八)
昭和46(一九七二)

文応2(一二六二)
建武元(一二三四)
永享9(一二三七)
天正19(一五九二)

九戸正実の乱に大槌孫八郎広信が兵六十人率いて南部信直に参陣
大槌孫八郎、和賀一揆陣庄に参陣
三陸沿岸大地震・大津波あり
大槌孫八郎政貞失脚
大槌孫八郎政貞奥瀬家に蟄居中に自刃
大槌氏滅亡
金沢村の助右衛門が安瀬ヶ沢の金山草分(試掘)を願って許可される

明治14(一九三九)
明治20(一九四五)
昭和14(一九三九)
昭和20(一九四五)
昭和23(一九四八)
昭和25(一九五〇)
昭和27(一九五二)
昭和30(一九五五)
昭和33(一九五八)
昭和35(一九六〇)
昭和42(一九六七)
昭和43(一九六八)
昭和46(一九七二)

慶長5(一六〇〇)
慶長16(一六一一)
慶長18(一六一三)
元和2(一六二六)
元和4(一六二八)
寛永元(一六二四)
寛永9(一六三二)
寛永19(一六四二)
万治2(一六五九)
寛文年間中
(一六七〇)一六七三
天和2(一六八二)
元禄5(一六九二)
元禄14(一七〇一)
宝永3(一七〇六)
宝永4(一七〇七)
享保元(一七一六)
享保5(一七二〇)
享保11(一七二六)

大槌城代を廃し代官を置く。大槌代官所が設置される(初代代官・針清七)
大槌代官が二人制となる
南部の命により大槌城を売却
寛文年間中に大槌村、小槌村の境界紛争起こる
小槌村にきりたん禁止の制札が建てられる
四日町(上町)の浄土宗見生山大念寺の開山
南部藩大槌に海辺奉行をおき、釜石に十分一取立役所をおく
前川善兵衛二代富永、九三十兩を南部藩に献金
この年、三度大槌地方を洪水襲う
吉祥寺を古寺から引き移し現在の地に再建する
鳩崎稲荷から現在の地に神社を移遷、二渡神社と称す
小槌神社、古明神の地から現在の城内の地に移遷
古廟山を開山した菊池慈泉が生まれる

昭和14(一九三九)
昭和20(一九四五)
昭和23(一九四八)
昭和25(一九五〇)
昭和27(一九五二)
昭和30(一九五五)
昭和33(一九五八)
昭和35(一九六〇)
昭和42(一九六七)
昭和43(一九六八)
昭和46(一九七二)

享保17(一七三二)
元文元(一七三六)
元文3(一七三八)
寛保元(一七四一)
寛保3(一七四三)
宝暦3(一七五三)
宝暦8(一七五八)
宝暦13(一七六三)
明和元(一七六四)
明和2(一七六五)
安永4(一七七五)
安永7(一七七七)
天明3(一七八三)
天明6(一七八六)
寛政3(一七九三)
寛政11(一八〇〇)
享和元(一八〇一)
享和2(一八〇二)
文化3(一八〇六)
文政6(一八二三)
弘化4(一八四七)
嘉永2(一八四九)
嘉永6(一八五三)
安政2(一八五五)
慶応元(一八六五)

牧庵鞭牛(二十三歳)が吉里吉里吉祥寺の活堂見牛(大到見牛)のもとで修業
向川原海龍山江岸寺が類焼。本尊以外全焼
南部藩主三十三代利親公が大槌巡見。前川善兵衛宅に宿す。この時の巡見で安渡浦を巡航し、珊瑚島を蓬莱島と名付ける
八日町(現本町)で大火事となる(八日町四九軒向川原七軒、四日町二軒類焼。原因放火による)
正法寺二十世住職、東光良普大和尚(寂照軒)が大念寺に私塾を開く
日光東照宮修復の為、前川善兵衛四代富昌、藩より御用金七十五百兩を命ぜられる
吉里吉里赤沼に法華経一字二石塚を築造
菊池祖晴が現在の御社地に東梅社創立
牧庵鞭牛和尚が山田織笠から大槌に抜ける裏街道を開削
菊池祖晴が九州大宰府に至り天神社の分霊を奉持東梅社に祀る
牧庵鞭牛和尚が御廟坂を開削。小槌川に架橋する(橋供養あり)
牧庵鞭牛和尚が吉里吉里坂を吉祥寺和尚見牛大到と共に開削
天明の飢饉始まる
菊池慈泉が宝暦・天明両飢饉の餓死者の為に供養塔建てる
代官所物書の小川孫兵衛「官職記」完成
前川家所有の御免石船「明神丸」の大修理
伊能忠敬が大槌海岸周辺を測量。藤屋に宿す
田鎖丹蔵が改良建網の「たんぞつ」を完成させ、漁場開拓に乗り出す
菊池祖晴が大般若経六百巻を書写。この年、生身往生を遂げる
山師平助が南部藩から金沢金山の「草分け証文」(試掘)の許可を受ける
弘化四年の百姓一揆起こる
大槌村と吉里吉里村の両村海境を確認
嘉永六年の百姓一揆起こる(三閉伊一揆)
藩士新渡戸伝の計画による三本木(十和田)の原野開拓に、大槌から金崎家、後藤家、前川家、里譜家等が資金を提供
碓川新砲台場普請懸に前川善兵衛、芳賀惣兵衛が任命される

昭和47(一九七二)
昭和48(一九七三)
昭和50(一九七五)
昭和52(一九七七)
昭和56(一九八一)
昭和57(一九八二)
昭和58(一九八三)
昭和59(一九八四)
昭和62(一九八七)
平成2(一九九〇)
平成4(一九九二)
平成5(一九九三)
平成6(一九九四)
平成9(一九九七)
平成10(一九九八)
平成11(一九九九)
平成12(二〇〇〇)
平成13(二〇〇一)
平成14(二〇〇二)
平成15(二〇〇三)
平成16(二〇〇四)
平成17(二〇〇五)
平成18(二〇〇六)
平成19(二〇〇七)

大槌地方は松本藩(信州)戸田家の取締に属する
大槌通は江刺県治下に含まれる
大槌代官所保有諸品(半被・脚半・陣旗・燈灯・檉棒・脇差等)入札を江刺県に上申
大槌郵便取扱所開設
公立大槌小学校、黒澤武兵衛宅を借用、第一九中学区小槌第八番小学校として開校
市町村制実施。小槌村、大槌村、吉里吉里村合併新大槌町となる
大津波来襲。明治二十九年の三陸大津波、被害戸数六七三戸、死亡五九九人(津波損害高三三七、〇〇〇円余)
郡制実施により西南閉伊郡が上閉伊郡と改称、大槌町も郡内に含まれる
吉里吉里漁業組合設立認可される
大槌浦漁業組合設立認可される
大槌町御社地(現町名、大町)に、さけの人工孵化場が町営で創設され、大槌川、小槌川におけるさけの人工孵化放流事業を開始
大槌郵便局電話交換業務開始
大地震、大津波来襲。浪の高さ十三尺。溺死者六十二人、流失倒壊戸数六二二戸、三陸大津波
山田緑大槌釜石間工事完了し、全線開通岩手県医業連が大槌病院を開設
釜石、米国海軍の艦砲射撃と空襲を受ける
大槌町も艦載機の襲撃を受ける
大槌町および金沢村農業協同組合設立
大槌病院が県営に移管、県立大槌病院と改称
社団法人大槌商工会創立
大槌町教育委員会発足
大槌町、金沢村と合併
陸中海岸国立公園指定
大槌魚市場完成
チリ地震津波襲来
円満融和と飛躍を象徴とした町章が決まる
筋山道路開通
国道45号古厩坂トンネル開通
リアス・シーニックライン開通
大槌・赤浜・吉里吉里の三漁協が合併し、大槌町漁業協同組合発足



金養平の山桜

宝暦・天明飢饉の供養塔

大槌代官所跡近世の上水道跡を検出

大槌川鮭捕獲六三〇四九尾で本州一となる
東京大学海洋研究所開所
井上ひさし氏著SF小説「吉里吉里人」ブーム
観光独立国・吉里吉里国の独立記念式典
桜木町裏山山林火災で被害額一億三千万円
吉里吉里海岸の砂が「鳴り砂」であることが立証される
東京都武蔵野市で「ふるさと大槌会」設立総会
町制施行百周年記念式典
国道45号大槌バイパス開通
三陸・海の博覧会協賛事業として「おおつち海洋性動物展」開催
郊外型ショッピングセンター「シーサイドタウンマスト」オープン
キャラクターマークの愛称を「おおちゃん」に決定
平成九年「第十七回全国豊かな海づくり大会」の開催会場地に大槌漁港が決定
町の魚を「さけ」に決定
第十七回全国豊かな海づくり大会天皇皇后両陛下ご臨席の下開催
浪板海岸が環境庁「日本の水浴場五五選」に選定
広域消防の実施
大槌町公共下水道通水式
総研究大学院大学の共同研究会が秋篠宮殿下出席の下開催(イトヨ確認
おおちゃんネットワーク稼働
飛内山国有林火災。約二十四ヘクタール焼失
アメリカ合衆国カリフォルニア州フォートブラッグ市とのホーム
ステイ交流開始
町立図書館開館
自然と共生するまちづくりシンポジウムが秋篠宮殿下出席の下開催
釜石広域風力発電事業ウインドファーム建設に着工
大槌港灯台点灯五十周年
吉里吉里小学校新校舎落成
釜石広域風力発電事業ウインドファーム始動
岩手県植樹祭開催
フォートブラッグ市と姉妹都市締結調印
町村合併五十周年記念式典
新山展望台完成
小槌川水門概成管理受託開始式
源水川の淡水型イトヨの天然記念物に指定される
赤浜・浪板児童館開館、金澤保育所開所夜行高速バス「遠野・釜石号」運行開始

大槌川鮭捕獲六三〇四九尾で本州一となる
東京大学海洋研究所開所
井上ひさし氏著SF小説「吉里吉里人」ブーム
観光独立国・吉里吉里国の独立記念式典
桜木町裏山山林火災で被害額一億三千万円
吉里吉里海岸の砂が「鳴り砂」であることが立証される
東京都武蔵野市で「ふるさと大槌会」設立総会
町制施行百周年記念式典
国道45号大槌バイパス開通
三陸・海の博覧会協賛事業として「おおつち海洋性動物展」開催
郊外型ショッピングセンター「シーサイドタウンマスト」オープン
キャラクターマークの愛称を「おおちゃん」に決定
平成九年「第十七回全国豊かな海づくり大会」の開催会場地に大槌漁港が決定
町の魚を「さけ」に決定
第十七回全国豊かな海づくり大会天皇皇后両陛下ご臨席の下開催
浪板海岸が環境庁「日本の水浴場五五選」に選定
広域消防の実施
大槌町公共下水道通水式
総研究大学院大学の共同研究会が秋篠宮殿下出席の下開催(イトヨ確認
おおちゃんネットワーク稼働
飛内山国有林火災。約二十四ヘクタール焼失
アメリカ合衆国カリフォルニア州フォートブラッグ市とのホーム
ステイ交流開始
町立図書館開館
自然と共生するまちづくりシンポジウムが秋篠宮殿下出席の下開催
釜石広域風力発電事業ウインドファーム建設に着工
大槌港灯台点灯五十周年
吉里吉里小学校新校舎落成
釜石広域風力発電事業ウインドファーム始動
岩手県植樹祭開催
フォートブラッグ市と姉妹都市締結調印
町村合併五十周年記念式典
新山展望台完成
小槌川水門概成管理受託開始式
源水川の淡水型イトヨの天然記念物に指定される
赤浜・浪板児童館開館、金澤保育所開所夜行高速バス「遠野・釜石号」運行開始

昭和47(一九七二)
昭和48(一九七三)
昭和50(一九七五)
昭和52(一九七七)
昭和56(一九八一)
昭和57(一九八二)
昭和58(一九八三)
昭和59(一九八四)
昭和62(一九八七)
平成2(一九九〇)
平成4(一九九二)
平成5(一九九三)
平成6(一九九四)
平成9(一九九七)
平成10(一九九八)
平成11(一九九九)
平成12(二〇〇〇)
平成13(二〇〇一)
平成14(二〇〇二)
平成15(二〇〇三)
平成16(二〇〇四)
平成17(二〇〇五)
平成18(二〇〇六)
平成19(二〇〇七)

大槌川鮭捕獲六三〇四九尾で本州一となる
東京大学海洋研究所開所
井上ひさし氏著SF小説「吉里吉里人」ブーム
観光独立国・吉里吉里国の独立記念式典
桜木町裏山山林火災で被害額一億三千万円
吉里吉里海岸の砂が「鳴り砂」であることが立証される
東京都武蔵野市で「ふるさと大槌会」設立総会
町制施行百周年記念式典
国道45号大槌バイパス開通
三陸・海の博覧会協賛事業として「おおつち海洋性動物展」開催
郊外型ショッピングセンター「シーサイドタウンマスト」オープン
キャラクターマークの愛称を「おおちゃん」に決定
平成九年「第十七回全国豊かな海づくり大会」の開催会場地に大槌漁港が決定
町の魚を「さけ」に決定
第十七回全国豊かな海づくり大会天皇皇后両陛下ご臨席の下開催
浪板海岸が環境庁「日本の水浴場五五選」に選定
広域消防の実施
大槌町公共下水道通水式
総研究大学院大学の共同研究会が秋篠宮殿下出席の下開催(イトヨ確認
おおちゃんネットワーク稼働
飛内山国有林火災。約二十四ヘクタール焼失
アメリカ合衆国カリフォルニア州フォートブラッグ市とのホーム
ステイ交流開始
町立図書館開館
自然と共生するまちづくりシンポジウムが秋篠宮殿下出席の下開催
釜石広域風力発電事業ウインドファーム建設に着工
大槌港灯台点灯五十周年
吉里吉里小学校新校舎落成
釜石広域風力発電事業ウインドファーム始動
岩手県植樹祭開催
フォートブラッグ市と姉妹都市締結調印
町村合併五十周年記念式典
新山展望台完成
小槌川水門概成管理受託開始式
源水川の淡水型イトヨの天然記念物に指定される
赤浜・浪板児童館開館、金澤保育所開所夜行高速バス「遠野・釜石号」運行開始



夏本遺跡から多数の竪穴住居跡を発見

幕末の緊張を伝える碓川砲台跡

大槌川鮭捕獲六三〇四九尾で本州一となる
東京大学海洋研究所開所
井上ひさし氏著SF小説「吉里吉里人」ブーム
観光独立国・吉里吉里国の独立記念式典
桜木町裏山山林火災で被害額一億三千万円
吉里吉里海岸の砂が「鳴り砂」であることが立証される
東京都武蔵野市で「ふるさと大槌会」設立総会
町制施行百周年記念式典
国道45号大槌バイパス開通
三陸・海の博覧会協賛事業として「おおつち海洋性動物展」開催
郊外型ショッピングセンター「シーサイドタウンマスト」オープン
キャラクターマークの愛称を「おおちゃん」に決定
平成九年「第十七回全国豊かな海づくり大会」の開催会場地に大槌漁港が決定
町の魚を「さけ」に決定
第十七回全国豊かな海づくり大会天皇皇后両陛下ご臨席の下開催
浪板海岸が環境庁「日本の水浴場五五選」に選定
広域消防の実施
大槌町公共下水道通水式
総研究大学院大学の共同研究会が秋篠宮殿下出席の下開催(イトヨ確認
おおちゃんネットワーク稼働
飛内山国有林火災。約二十四ヘクタール焼失
アメリカ合衆国カリフォルニア州フォートブラッグ市とのホーム
ステイ交流開始
町立図書館開館
自然と共生するまちづくりシンポジウムが秋篠宮殿下出席の下開催
釜石広域風力発電事業ウインドファーム建設に着工
大槌港灯台点灯五十周年
吉里吉里小学校新校舎落成
釜石広域風力発電事業ウインドファーム始動
岩手県植樹祭開催
フォートブラッグ市と姉妹都市締結調印
町村合併五十周年記念式典
新山展望台完成
小槌川水門概成管理受託開始式
源水川の淡水型イトヨの天然記念物に指定される
赤浜・浪板児童館開館、金澤保育所開所夜行高速バス「遠野・釜石号」運行開始

大槌川鮭捕獲六三〇四九尾で本州一となる
東京大学海洋研究所開所
井上ひさし氏著SF小説「吉里吉里人」ブーム
観光独立国・吉里吉里国の独立記念式典
桜木町裏山山林火災で被害額一億三千万円
吉里吉里海岸の砂が「鳴り砂」であることが立証される
東京都武蔵野市で「ふるさと大槌会」設立総会
町制施行百周年記念式典
国道45号大槌バイパス開通
三陸・海の博覧会協賛事業として「おおつち海洋性動物展」開催
郊外型ショッピングセンター「シーサイドタウンマスト」オープン
キャラクターマークの愛称を「おおちゃん」に決定
平成九年「第十七回全国豊かな海づくり大会」の開催会場地に大槌漁港が決定
町の魚を「さけ」に決定
第十七回全国豊かな海づくり大会天皇皇后両陛下ご臨席の下開催
浪板海岸が環境庁「日本の水浴場五五選」に選定
広域消防の実施
大槌町公共下水道通水式
総研究大学院大学の共同研究会が秋篠宮殿下出席の下開催(イトヨ確認
おおちゃんネットワーク稼働
飛内山国有林火災。約二十四ヘクタール焼失
アメリカ合衆国カリフォルニア州フォートブラッグ市とのホーム
ステイ交流開始
町立図書館開館
自然と共生するまちづくりシンポジウムが秋篠宮殿下出席の下開催
釜石広域風力発電事業ウインドファーム建設に着工
大槌港灯台点灯五十周年
吉里吉里小学校新校舎落成
釜石広域風力発電事業ウインドファーム始動
岩手県植樹祭開催
フォートブラッグ市と姉妹都市締結調印
町村合併五十周年記念式典
新山展望台完成
小槌川水門概成管理受託開始式
源水川の淡水型イトヨの天然記念物に指定される
赤浜・浪板児童館開館、金澤保育所開所夜行高速バス「遠野・釜石号」運行開始

昭和47(一九七二)
昭和48(一九七三)
昭和50(一九七五)
昭和52(一九七七)
昭和56(一九八一)
昭和57(一九八二)
昭和58(一九八三)
昭和59(一九八四)
昭和62(一九八七)
平成2(一九九〇)
平成4(一九九二)
平成5(一九九三)
平成6(一九九四)
平成9(一九九七)
平成10(一九九八)
平成11(一九九九)
平成12(二〇〇〇)
平成13(二〇〇一)
平成14(二〇〇二)
平成15(二〇〇三)
平成16(二〇〇四)
平成17(二〇〇五)
平成18(二〇〇六)
平成19(二〇〇七)

大槌川鮭捕獲六三〇四九尾で本州一となる
東京大学海洋研究所開所
井上ひさし氏著SF小説「吉里吉里人」ブーム
観光独立国・吉里吉里国の独立記念式典
桜木町裏山山林火災で被害額一億三千万円
吉里吉里海岸の砂が「鳴り砂」であることが立証される
東京都武蔵野市で「ふるさと大槌会」設立総会
町制施行百周年記念式典
国道45号大槌バイパス開通
三陸・海の博覧会協賛事業として「おおつち海洋性動物展」開催
郊外型ショッピングセンター「シーサイドタウンマスト」オープン
キャラクターマークの愛称を「おおちゃん」に決定
平成九年「第十七回全国豊かな海づくり大会」の開催会場地に大槌漁港が決定
町の魚を「さけ」に決定
第十七回全国豊かな海づくり大会天皇皇后両陛下ご臨席の下開催
浪板海岸が環境庁「日本の水浴場五五選」に選定
広域消防の実施
大槌町公共下水道通水式
総研究大学院大学の共同研究会が秋篠宮殿下出席の下開催(イトヨ確認
おおちゃんネットワーク稼働
飛内山国有林火災。約二十四ヘクタール焼失
アメリカ合衆国カリフォルニア州フォートブラッグ市とのホーム
ステイ交流開始
町立図書館開館
自然と共生するまちづくりシンポジウムが秋篠宮殿下出席の下開催
釜石広域風力発電事業ウインドファーム建設に着工
大槌港灯台点灯五十周年
吉里吉里小学校新校舎落成
釜石広域風力発電事業ウインドファーム始動
岩手県植樹祭開催
フォートブラッグ市と姉妹都市締結調印
町村合併五十周年記念式典
新山展望台完成
小槌川水門概成管理受託開始式
源水川の淡水型イトヨの天然記念物に指定される
赤浜・浪板児童館開館、金澤保育所開所夜行高速バス「遠野・釜石号」運行開始



御社地

旧大槌街道

大槌川鮭捕獲六三〇四九尾で本州一となる
東京大学海洋研究所開所
井上ひさし氏著SF小説「吉里吉里人」ブーム
観光独立国・吉里吉里国の独立記念式典
桜木町裏山山林火災で被害額一億三千万円
吉里吉里海岸の砂が「鳴り砂」であることが立証される
東京都武蔵野市で「ふるさと大槌会」設立総会
町制施行百周年記念式典
国道45号大槌バイパス開通
三陸・海の博覧会協賛事業として「おおつち海洋性動物展」開催
郊外型ショッピングセンター「シーサイドタウンマスト」オープン
キャラクターマークの愛称を「おおちゃん」に決定
平成九年「第十七回全国豊かな海づくり大会」の開催会場地に大槌漁港が決定
町の魚を「さけ」に決定
第十七回全国豊かな海づくり大会天皇皇后両陛下ご臨席の下開催
浪板海岸が環境庁「日本の水浴場五五選」に選定
広域消防の実施
大槌町公共下水道通水式
総研究大学院大学の共同研究会が秋篠宮殿下出席の下開催(イトヨ確認
おおちゃんネットワーク稼働
飛内山国有林火災。約二十四ヘクタール焼失
アメリカ合衆国カリフォルニア州フォートブラッグ市とのホーム
ステイ交流開始
町立図書館開館
自然と共生するまちづくりシンポジウムが秋篠宮殿下出席の下開催
釜石広域風力発電事業ウインドファーム建設に着工
大槌港灯台点灯五十周年
吉里吉里小学校新校舎落成
釜石広域風力発電事業ウインドファーム始動
岩手県植樹祭開催
フォートブラッグ市と姉妹都市締結調印
町村合併五十周年記念式典
新山展望台完成
小槌川水門概成管理受託開始式
源水川の淡水型イトヨの天然記念物に指定される
赤浜・浪板児童館開館、金澤保育所開所夜行高速バス「遠野・釜石号」運行開始

大槌川鮭捕獲六三〇四九尾で本州一となる
東京大学海洋研究所開所
井上ひさし氏著SF小説「吉里吉里人」ブーム
観光独立国・吉里吉里国の独立記念式典
桜木町裏山山林火災で被害額一億三千万円
吉里吉里海岸の砂が「鳴り砂」であることが立証される
東京都武蔵野市で「ふるさと大槌会」設立総会
町制施行百周年記念式典
国道45号大槌バイパス開通
三陸・海の博覧会協賛事業として「おおつち海洋性動物展」開催
郊外型ショッピングセンター「シーサイドタウンマスト」オープン
キャラクターマークの愛称を「おおちゃん」に決定
平成九年「第十七回全国豊かな海づくり大会」の開催会場地に大槌漁港が決定
町の魚を「さけ」に決定
第十七回全国豊かな海づくり大会天皇皇后両陛下ご臨席の下開催
浪板海岸が環境庁「日本の水浴場五五選」に選定
広域消防の実施
大槌町公共下水道通水式
総研究大学院大学の共同研究会が秋篠宮殿下出席の下開催(イトヨ確認
おおちゃんネットワーク稼働
飛内山国有林火災。約二十四ヘクタール焼失
アメリカ合衆国カリフォルニア州フォートブラッグ市とのホーム
ステイ交流開始
町立図書館開館
自然と共生するまちづくりシンポジウムが秋篠宮殿下出席の下開催
釜石広域風力発電事業ウインドファーム建設に着工
大槌港灯台点灯五十周年
吉里吉里小学校新校舎落成
釜石広域風力発電事業ウインドファーム始動
岩手県植樹祭開催
フォートブラッグ市と姉妹都市締結調印
町村合併五十周年記念式典
新山展望台完成
小槌川水門概成管理受託開始式
源水川の淡水型イトヨの天然記念物に指定される
赤浜・浪板児童館開館、金澤保育所開所夜行高速バス「遠野・釜石号」運行開始

昭和47(一九七二)
昭和48(一九七三)
昭和50(一九七五)
昭和52(一九七七)
昭和56(一九八一)
昭和57(一九八二)
昭和58(一九八三)
昭和59(一九八四)
昭和62(一九八七)
平成2(一九九〇)
平成4(一九九二)
平成5(一九九三)
平成6(一九九四)
平成9(一九九七)
平成10(一九九八)
平成11(一九九九)
平成12(二〇〇〇)
平成13(二〇〇一)
平成14(二〇〇二)
平成15(二〇〇三)
平成16(二〇〇四)
平成17(二〇〇五)
平成18(二〇〇六)
平成19(二〇〇七)

大槌川鮭捕獲六三〇四九尾で本州一となる
東京大学海洋研究所開所
井上ひさし氏著SF小説「吉里吉里人」ブーム
観光独立国・吉里吉里国の独立記念式典
桜木町裏山山林火災で被害額一億三千万円
吉里吉里海岸の砂が「鳴り砂」であることが立証される
東京都武蔵野市で「ふるさと大槌会」設立総会
町制施行百周年記念式典
国道45号大槌バイパス開通
三陸・海の博覧会協賛事業として「おおつち海洋性動物展」開催
郊外型ショッピングセンター「シーサイドタウンマスト」オープン
キャラクターマークの愛称を「おおちゃん」に決定
平成九年「第十七回全国豊かな海づくり大会」の開催会場地に大槌漁港が決定
町の魚を「さけ」に決定
第十七回全国豊かな海づくり大会天皇皇后両陛下ご臨席の下開催
浪板海岸が環境庁「日本の水浴場五五選」に選定
広域消防の実施
大槌町公共下水道通水式
総研究大学院大学の共同研究会が秋篠宮殿下出席の下開催(イトヨ確認
おおちゃんネットワーク稼働
飛内山国有林火災。約二十四ヘクタール焼失
アメリカ合衆国カリフォルニア州フォートブラッグ市とのホーム
ステイ交流開始
町立図書館開館
自然と共生するまちづくりシンポジウムが秋篠宮殿下出席の下開催
釜石広域風力発電事業ウインドファーム建設に着工
大槌港灯台点灯五十周年
吉里吉里小学校新校舎落成
釜石広域風力発電事業ウインドファーム始動
岩手県植樹祭開催
フォートブラッグ市と姉妹都市締結調印
町村合併五十周年記念式典
新山展望台完成
小槌川水門概成管理受託開始式
源水川の淡水型イトヨの天然記念物に指定される
赤浜・浪板児童館開館、金澤保育所開所夜行高速バス「遠野・釜石号」運行開始

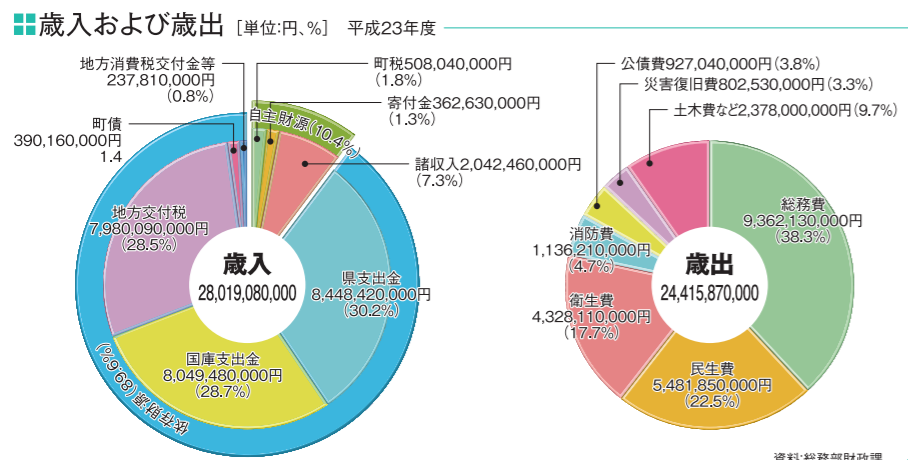
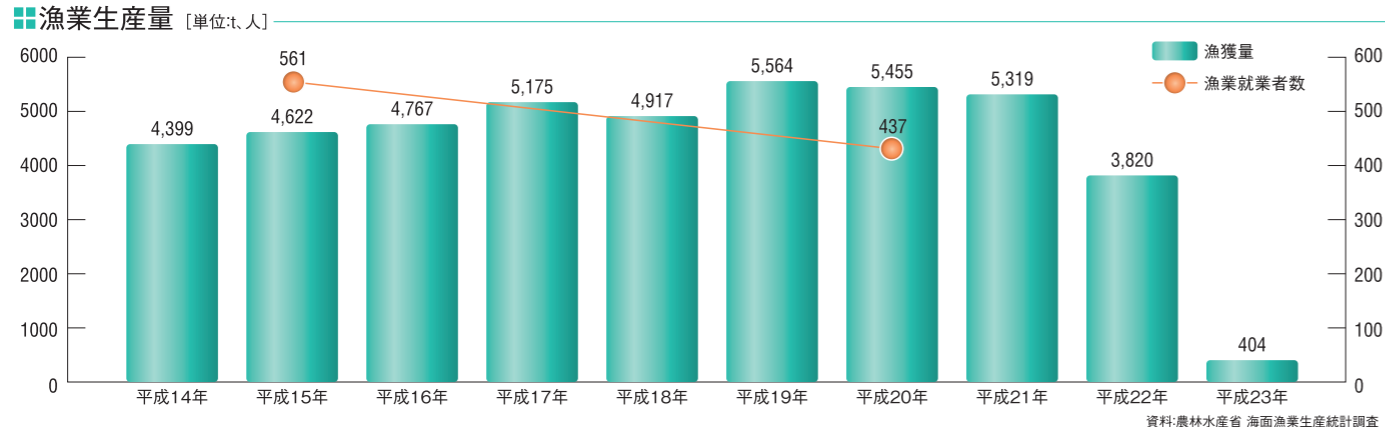
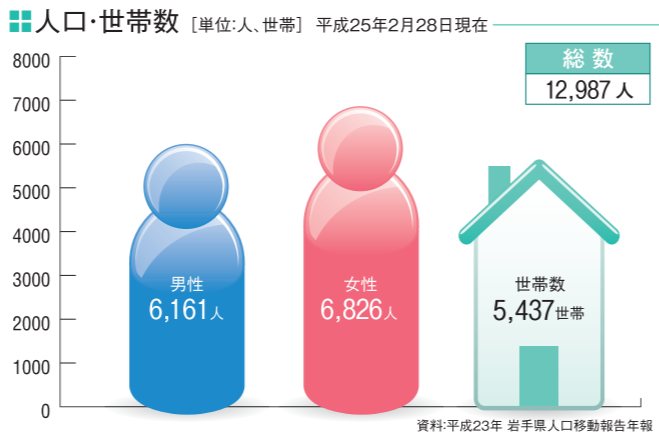
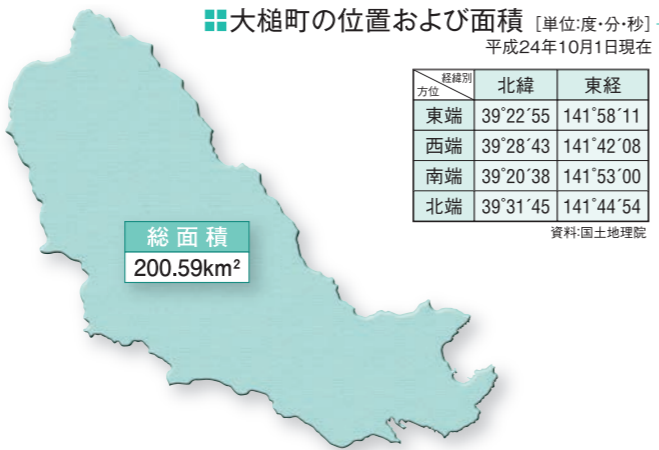
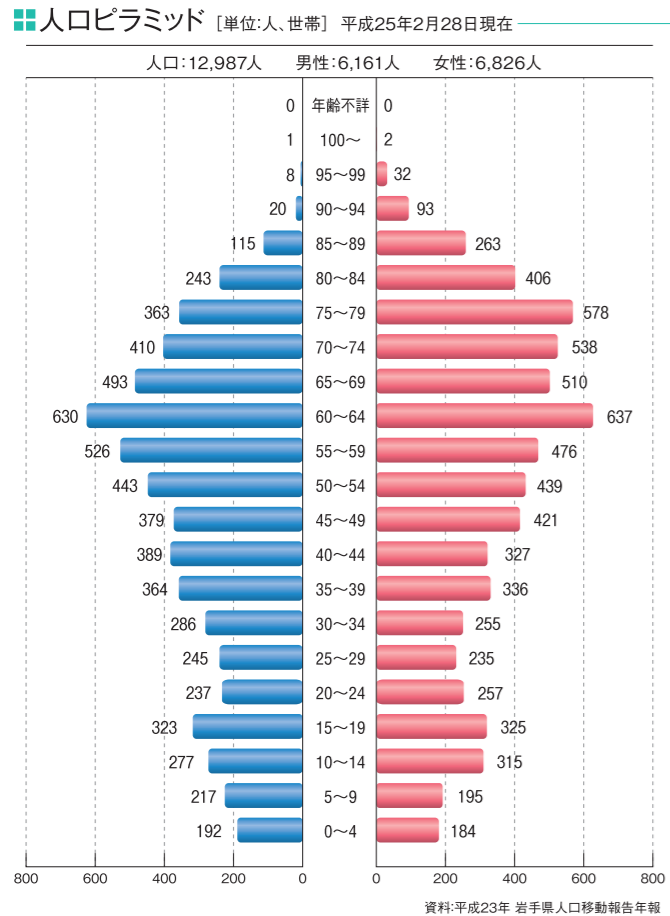


iwate OTSUCHI



全国豊かな海づくり大会記念御製碑

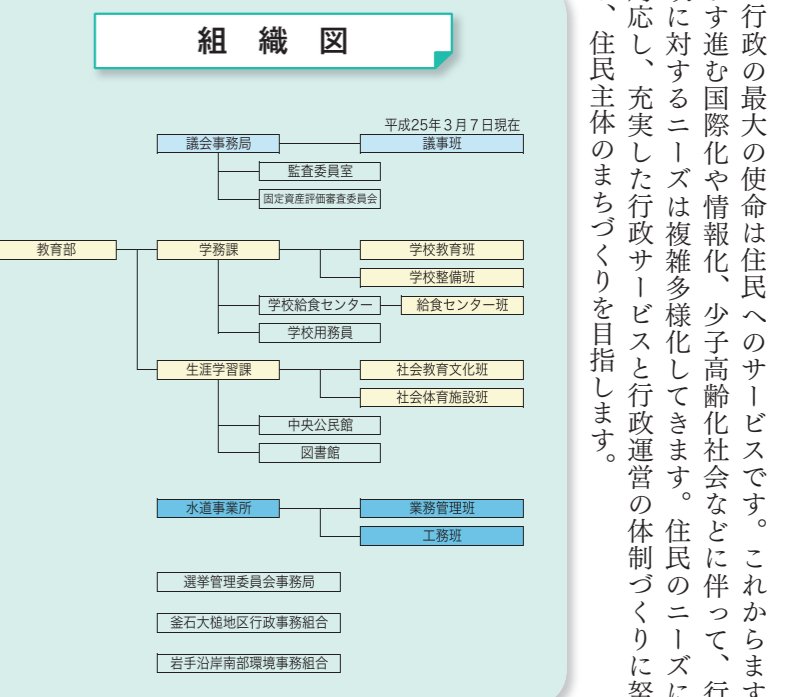
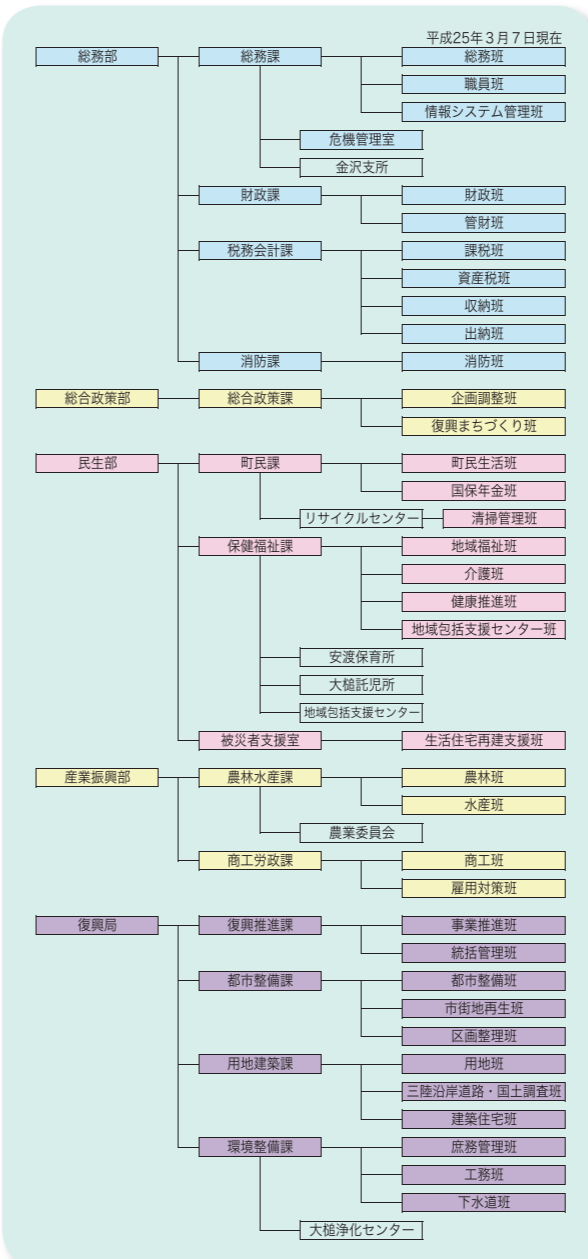
統計資料



小・中・高等学校児童生徒数 [単位:人] 平成25年2月1日現在

| 区分 | 児童・生徒数 | | |
|---------|--------|-----|-----|
| | 総数 | 男子 | 女子 |
| 総数 | 1207 | 587 | 620 |
| 大槌小学校 | 199 | 114 | 85 |
| 大槌北小学校 | 187 | 89 | 98 |
| 安波小学校 | 34 | 15 | 19 |
| 赤浜小学校 | 18 | 12 | 6 |
| 吉里吉里小学校 | 118 | 50 | 68 |
| 小計 | 556 | 280 | 276 |
| 大槌中学校 | 266 | 122 | 144 |
| 吉里吉里中学校 | 84 | 47 | 37 |
| 小計 | 350 | 169 | 181 |
| 大槌高等学校 | 301 | 138 | 163 |
| 小計 | 301 | 138 | 163 |

資料:学校基本調査、学務課



行政

行政の最大の使命は住民へのサービスです。これからはますます進む国際化や情報化、少子高齢化社会などに伴って、行政に対するニーズは複雑多様化してきます。住民のニーズに対応し、充実した行政サービスと行政運営の体制づくりに努め、住民主体のまちづくりを目指します。



議会

大槌町議会 議員名簿

- | | | |
|----------|-----------|-----------|
| 1番 三浦 諭 | 7番 小松 則明 | 12番 野崎 重太 |
| 2番 芳賀 潤 | 8番 里舘 裕子 | 13番 阿部 義正 |
| 3番 東梅 守 | 9番 金崎 悟朗 | 14番 阿部 六平 |
| 5番 阿部 俊作 | 10番 後藤 高明 | |
| 6番 東梅 康悦 | 11番 岩崎 松生 | |

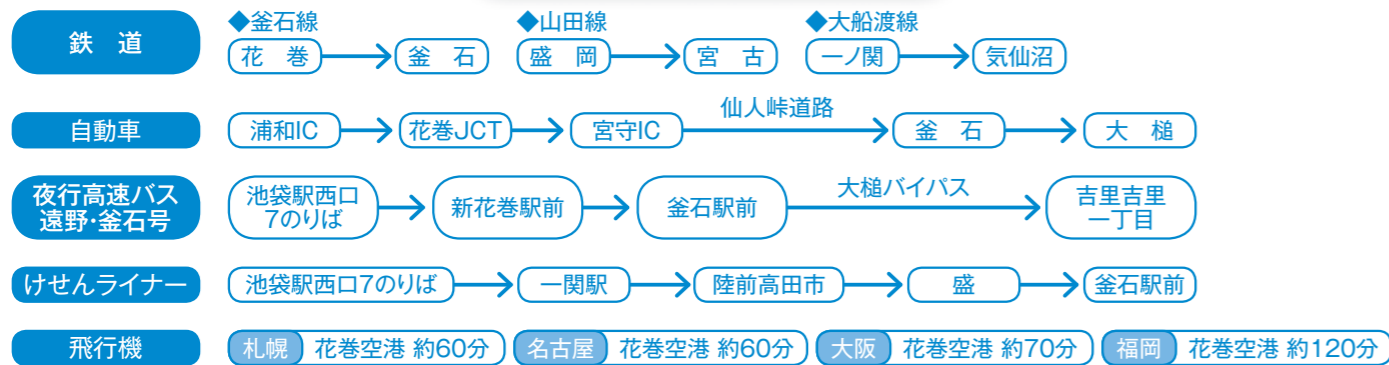


大槌 タウン マップ

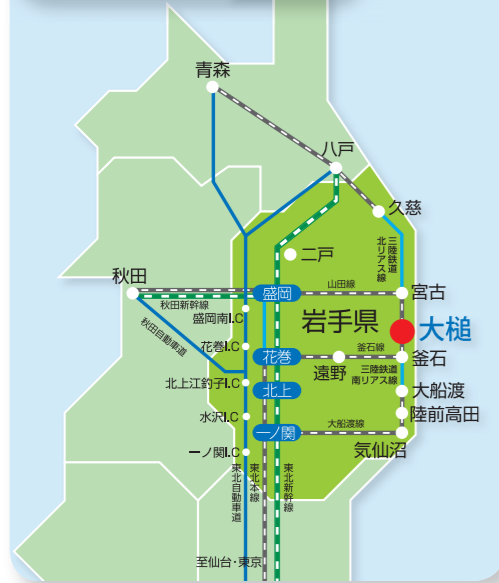


- 【凡例】
- 町・村役場
 - X 交番
 - ⊗ 高等学校
 - ⊠ 小・中学校
 - ⊕ 病院
 - ⊖ 消防署
 - ⊙ 郵便局

大槌までのアクセス



岩手県・近隣県からの アクセスイメージ



鉄道・飛行機での アクセスイメージ



姉妹都市締結協定書



また、中・高生によるホームステイでは、お互いの生活文化や言葉に触れることで、子どもたちの幅広い視野を培い、国際化を視野に入れた今後の学校教育の現場においてもこれらの交流は町の大きな財産となり、将来への可能性となることが期待されます。

平成十七年十月十五日、大槌町とアメリカ合衆国カリフォルニア州フォートブラッグ市は、相互の信頼と尊敬を礎とし、これまでの友好関係をさらに推進するため姉妹都市の締結を行いました。

フォートブラッグ市は、人口約七千人、観光とサケを中心とした水産業を基幹産業とする街です。カリフォルニア州サンフランシスコ市から北に約二百四十キロ、大槌町と緯度がほぼ同じ三十九度、十分の場所に位置しています。

「世界最大のサケバーベキュー」を催すこの街の存在を知ったのは、平成九年に大槌で開催された第十七回全国豊かな海づくり大会の前身のプレイベントの時でした。海づくり大会に同市の市長を招聘し、その後平成十四年から両市町の中高生がホームステイなどで交流を温め、平成十七年、フォートブラッグ市長夫妻が大槌町を訪れ姉妹都市締結の調印式を行いました。

この締結により、大槌町とフォートブラッグ市の絆がさらに強固なものとなり、今後ますます進んでいく国際化の時代に向けて町の貴重な第一歩となりました。

姉妹都市

フォートブラッグ市



町民憲章 [昭和48年10月制定]

- 一、自然を愛し自然を大切にしましょう
- 一、産業を興し豊かなまちをつくりましょう
- 一、健康でいきまらるる生活をしましょう
- 一、香り高い郷土の文化を育てましょう
- 一、安全で住みよいまちをつくりましょう

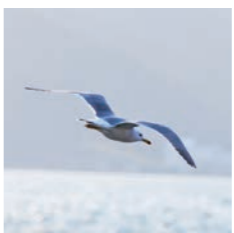
大槌町民歌 [昭和48年10月制定]

作詞 滝田常晴
補作 桜田史郎
作曲 押尾司

- 1 太平洋に のぼる陽よ
入り船出船 海の幸
山のこだまも さわやかに
生きるよろこび はつらつと
大槌大槌 このまちを
力あわせて 築こうよ
片寄せ波の 浜風に
- 2 根を張る松の たくましさ
進取の気魄 あふれわく
みのるしあわせ もろともに
大槌大槌 このまちを
日々にいそしみ 拓こうよ
大槌小槌 水清く
流れにおどる 鮭の群れ
心ゆたかな 人の和に
夢をあつめて うるわしく
大槌大槌 このまちの
ゆくてたのしく 進もうよ
- 3



町の花
新山つつじ
[昭和48年10月制定]



町の鳥
かもめ
[昭和48年10月制定]



町の魚
さけ
[平成9年8月制定]



町の木
けやき
[昭和48年10月制定]



イメージキャラクター
おおちゃん

大槌町のイニシャル「O」と大槌町の「槌」をモチーフに擬人化し、恵まれた自然環境と、素敵な心のエネルギーを基に「打ち出の大槌」から文化・教育・産業などすべての面で、限らない飛躍の力が大槌町に振り出されることをイメージしたもので、大槌町CI計画により平成6年1月に制定されました。



町章

大槌町の「大」を「鎧」の中に図案化し、町の円満融和と飛躍を表したもので、昭和35年8月に制定されました。